

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	盛岡三大麺普及事業			事業コード	3176
所属コード	131000	課等名	商工課	係名	商業係
課長名	後藤 敏弘	担当者名	奥野 毅明	内線番号	3715
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	多様で活発な商業・サービスの振興	コード	3
	基本事業	魅力ある商店街の形成	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 7 款 1 項 1 目 盛岡三大麺普及事業（020-01）			
特記事項 (H26)				
事業期間	■ 単年度 □ 単年度繰返 □ 期間限定複数年度		開始年度	26 年度
根拠法令等 (H26)	盛岡三大麺普及協議会規約， 全日本わんこそば選手権実行委員会規約			

(2) 事務事業の概要

盛岡を代表する食文化である盛岡三大麺（わんこそば，盛岡冷麺，盛岡じゃじゃ麺）の普及拡大を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

岩手県では，古くから各地で伝統的に，そして日常的に麺が食され，独自の麺文化が育まれており，盛岡市でも昭和 61 年から実施している「全日本わんこそば選手権」のほか，平成 24 年のいわてディスティネーションキャンペーンにおいて「盛岡三大麺フェスティバル」や「麺食いラリー」等が実施され，観光資源としても麺文化に大きな注目や期待が集まってきている。とりわけ近年では，わんこそば，盛岡冷麺，盛岡じゃじゃ麺の「盛岡三大麺」が全国的に広まっている。

こういった地元に根付く麺文化を強力に発信し，さらなる麺ファンの獲得や交流人口を増やしていくため，支援を実施したもの。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 26 年 7 月 3 日に「盛岡三大麺普及協議会」が設立された。また，麺食いラリーを実施していた盛岡麺まつり実行委員会が盛岡三大麺普及協議会と統合し，予算と実施事業の引継ぎが行われた。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が，何が対象か）

全日本わんこそば選手権実行委員会，盛岡麺まつり実行委員会，盛岡三大麺普及協議会

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 負担金支出対象団体数	団体				3	2
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

第 29 回全日本わんこそば選手権の実施を支援したほか、盛岡三大麺普及協議会の設立の補助をした。また、盛岡麺まつり実行委員会が盛岡三大麺普及協議会と統合され、予算や事業を引き継ぎ、イベント参加等による情報発信をした。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 麺MAP作成部数	部				25,000	25,000
B わんこそば選手権入場者数	人				700	638
C イベント実施・出店回数	回				8	8

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

対象団体の事業を支援することで、業界団体内の連携体制を強化し、麺ファンの獲得や交流人口の増加を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 観光客入込数	■上げる □下げる □維持	万人				490	497
B 宿泊・飲食サービス(商業統計・経済センサス)	■上げる □下げる □維持	百万 円				49,633	49,633
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円					
	②県	千円					
	③地方債	千円					

	④一般財源	千円				400	400
	⑤その他()	千円					
	A 小計 ①～⑤	千円				400	400
人件費	⑥延べ業務時間数	時間				300	300
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円				1,200	1,200
計	トータルコスト A+B	千円				1,600	1,600
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：盛岡三大麺の魅力を発信することで、来盛者が増え、商店街等に活気生まれるため。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：盛岡三大麺は盛岡ブランドとして全国的にも認知されつつあり、業会団体の支援により効果的に情報発信等を行うことで、盛岡市全体の魅力向上につながることから関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

妥当である。

理由：全日本わんこそば選手権実行委員会は、全日本わんこそば選手権を開催する組織であり、また盛岡三大麺普及協議会は盛岡三大麺の情報発信やイベントを実施する包括的な組織であり、麺文化を発展するためにこれらの団体を対象とすることは妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

理由：廃止・休止した場合、業界の活力が失われる恐れがある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある。

理由：各団体の会員や協力者が増加することで、より効果的な情報発信が可能となり、イベント入場者数や観光客入込数の増加が可能である。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平・公正である

理由：業界全体の発展を目指す事業を支援しており、対象団体も会費制にするなど相応の事業者負担もあることから、公平・公正である。

(4) 効率性評価

削減は可能である。

理由：今まで当課で担ってきた役割を事務局が担うことで、人件費の削減は可能である。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	商業・サービス業の振興	コード	22
	小施策（推進項目）	魅力ある商店街の形成支援	コード	1

(2) 改革改善の方向性

事務局内部での役割分担を明確にし、担当業務の分散を検討する。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

事務局機能が脆弱であり、市の支援に依存している部分が大きいため、それぞれの役割を明確にし、業界主導に体制づくりを指導する。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

盛岡三大麺普及協議会には、全日本わんこそば選手権の運営を含めた民間主導による盛岡三大麺の普及促進を担う役割が期待されていることから、組織運営、事業企画等に適時適切な支援を行う必要がある。

さらには、盛岡の麺文化が観光面はもとより、ひとつの産業として発展させるべく、当該協議会構成員相互の連携強化、情報共有、意識改革等に資する事業の実施を支援するものとする。